

帝人グループのESH活動

環境(Environment)、安全(Safety)、健康(Health)

1. 帝人グループの概要
2. ESHマネジメントシステム
3. 化学物質排出削減活動
4. 地域リスクコミュニケーション活動

帝人(株)

帝人グループの概要

1. 帝人株式会社の概要

(1) 創立 : 1918年(大正7年)6月17日

(2) 資本金 : 70,787百万円

(3) 本社 : 大阪本社(〒541-8587 大阪府中央区南本町1-6-7)

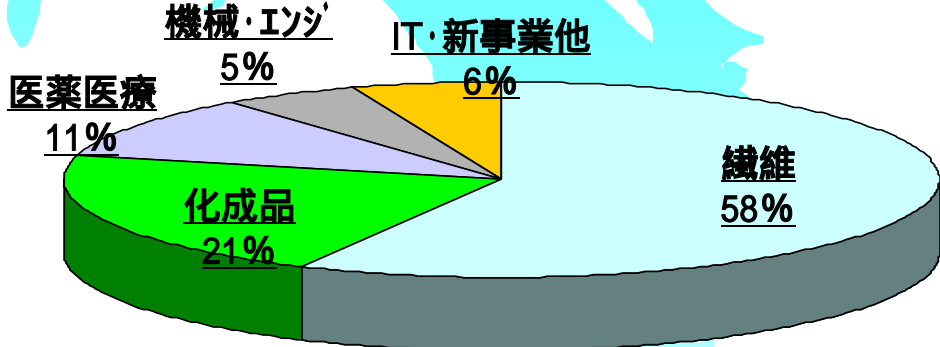
東京本社(〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1)

2. 帝人グループの概要

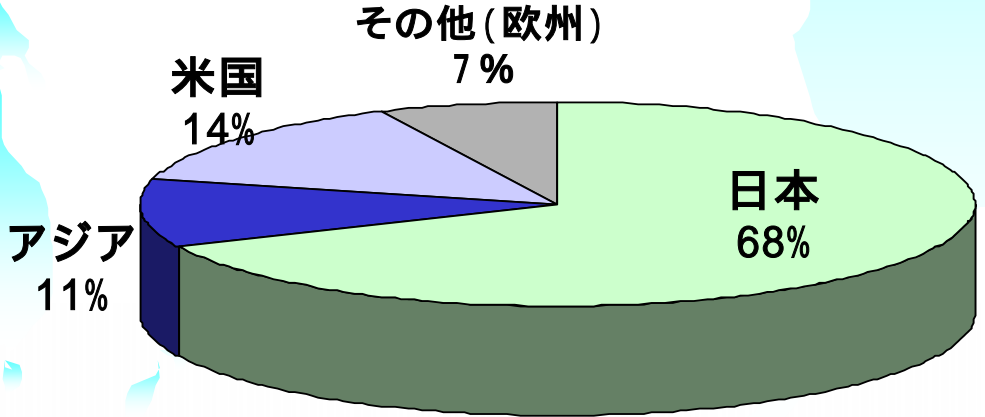
区分	会社数	従業員数
国内	101社	10,684人
海外	72社	9,867人
合計	173社	20,551人

帝人グループの概要(2)

売上高 8,746億円



地域別売上割合



(億円)	2004年3月期 実績
売上高	8,746
営業利益	387
<営業利益率>	4.4%
経常利益	238
当期純利益	85

企業理念 & ブランドステートメント

企業理念: Quality of Life

テイジンは人間への深い理解と豊かな創造力で
クオリティ・オブ・ライフの向上に努めます。
社会と共に成長します。
社員と共に成長します。

ブランドステートメント…コーポレートブランドの約束

“Human Chemistry, Human Solutions”

「人と地球環境(Human)に配慮した化学技術(Chemistry)の向上と、
社会と顧客(Human)が期待している解決策(Solutions)を提供する」

帝人グループ地球環境憲章(1992年12月制定)

私たちは企業理念の一つである「地球環境との共生を図り、自然と生命を大切にします」を実現するため

- 1) 環境保全と安全を優先させる事業活動を行い、地球環境と調和する製品・サービスを社会に提供します。
- 2) 資源・エネルギーの有効活用と製品のリサイクルを通して、環境負荷の低減を推進します。
- 3) 地域社会、国際社会と協調し、知恵と技術で地球環境保全と社会の持続的発展に貢献します。

帝人グループ地球環境行動目標(1992年12月制定、2001年4月改訂)

- 1) 事業の計画段階でアセスメントを充実し、当該事業活動が環境に与える負荷の低減に努める。
- 2) 化学物質の取り扱いについて十分な調査・研究を行い、安全・健康・環境を損なわないようにする。
- 3) 開発・生産・販売等の事業活動の各段階において省資源を推進し、廃棄物を削減する。
- 4) 開発・生産・販売等の事業活動の各段階において省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に努める。
- 5) 地球環境に対する負荷が少ない商品および原材料を積極的に購入、使用する。
- 6) 製品の輸送・使用・廃棄が安全と環境に十分配慮して行われるよう、関係者に適切な情報の提供と支援を行う。
- 7) リサイクルに適した製品及び回収・再資源化技術の開発に努める。又、関連業界のリサイクル事業を支援する。
- 8) 事業活動の一環として、環境の保全や改善に役立つ技術と製品の開発を推進する。
- 9) 職場や家庭での環境保全活動を定着させるため、社員の教育・啓発を積極的に行う。
- 10) 保有する技術・情報を通して、地域社会から国際社会に及ぶ環境保全活動を支援する。

グループ中期目標(1999年制定)

1.地球環境

有害化学物質の排出量50%削減

エネルギー効率1%/年向上

非有効活用廃棄物の排出量50%削減

基準:1998年度

目標:2005年度

2.トータルゼロ

環境汚染事故ゼロ

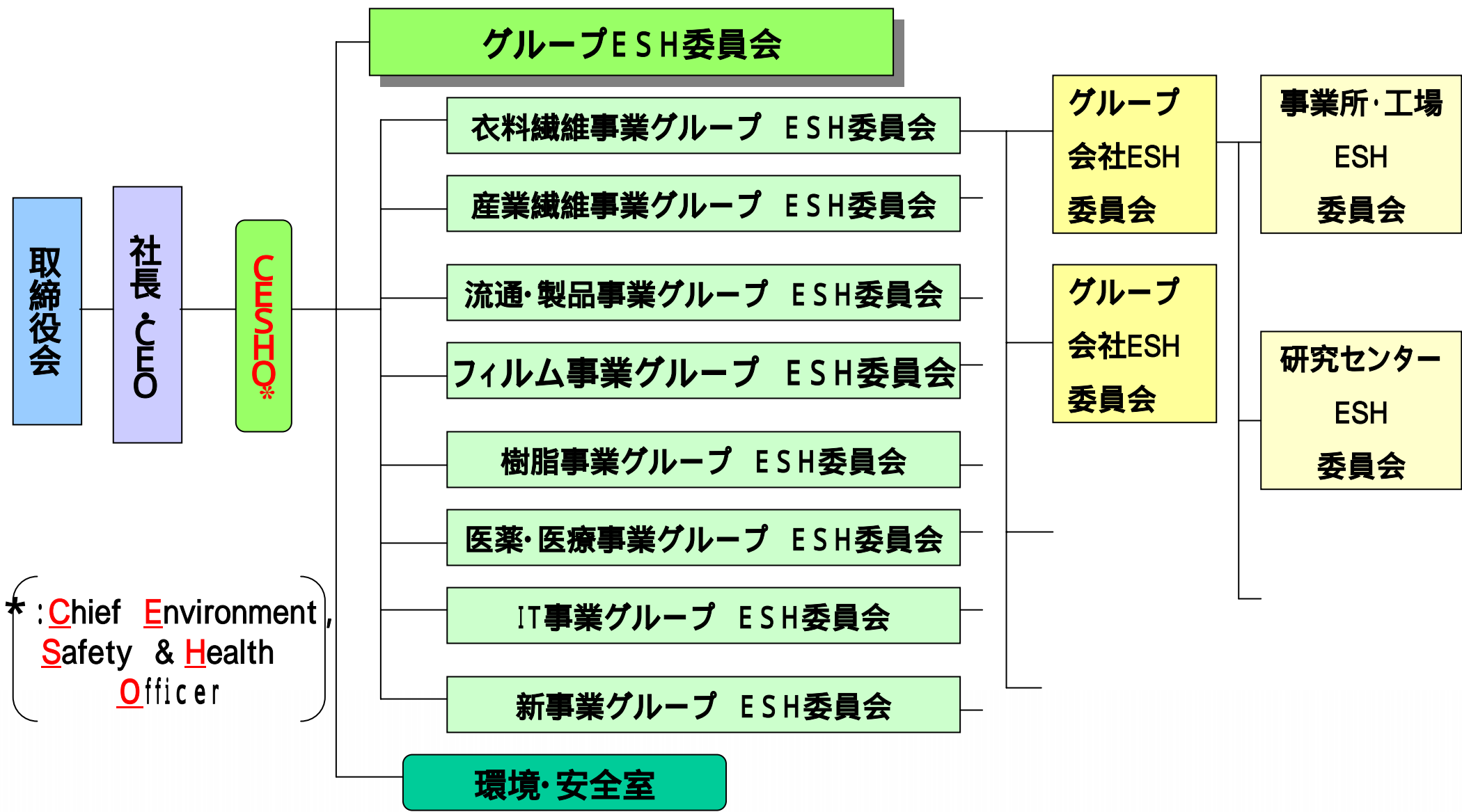
重大労災ゼロ

爆発・火災ゼロ

職業性疾病ゼロ

PL事故ゼロ

ESHマネジメント体制



ESH活動体系

企業理念

地球環境憲章及び行動目標

ESH中期計画方針・目標

CESHO年度方針

グループESH委員会(4月)

ESH監査 (3月)

ESH監査 (12~2月)

ESH監査 (6月~2月)

事業グループ
ESH委員会

グループ会社
事業所・工場
研究センター

EMS

OHSMS

Action

Plan

Check

Do

事業所、工場、研究センターのESHマネジメントシステム

区分	マネジメントシステム	対象	構築状況 (2004年12月現在)
環境	ISO14001に基づく マネジメントシステム (EMS)	一定以上の環境負荷の 国内外の生産事業所、工場、 研究センター (国内: 42 海外: 15)	ISO14001認証取得 ・国内: 38 ・海外: 9
労働 安全	OHSAS18001 に基づく マネジメントシステム (OHSMS)	国内外の生産事業所、工場、 研究センター (適合証明取得を努力目標 として設定中)	OHSAS適合証明取得 ・国内: 21 ・海外: 6

TOPマネジメントによる監査体制

区分	監査内容	監査者	被監査部署	実施時期
ESH監査	事業所、工場のESH 管理活動	事業グループ ESH委員長	国内外のグループ 会社の事業 所・工場	6月～11月
ESH監査	環境を主とした中期目 標などの推進状況	事業グループ ESH委員長	国内外のグループ 会社	12月～2月
ESH監査	事業グループのESH 活動状況	CESHO	事業グループ	3月
特別監査	事業所、工場のESH 活動	CESHO 又は 事業グループ ESH委員長	国内外のグループ 会社の事業 所・工場	適宜

化学物質の環境排出量削減(1)

1. 対象化学物質:

(1) 化学物質管理法* 第1種指定化学物質・・・354物質

(2) 日化協指定化学物質・・・283物質

} ⇒ 480物質

(*: 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律)

(重複指定考慮)

(3) 取扱量: 年間1トン以上

2. 取扱事業所、工場、研究センター

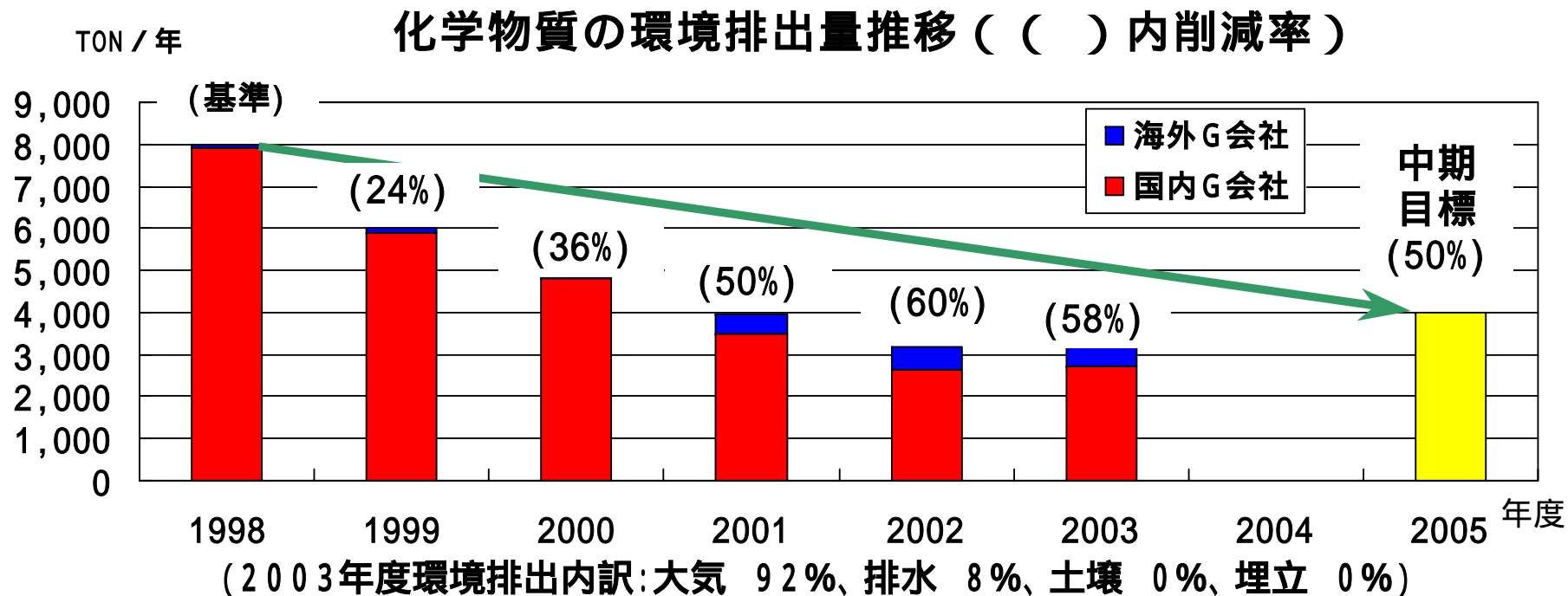
(1) 国内 : 49箇所

(2) 海外 : 17箇所

3. 取扱量及び種類

年度	取扱化学物質(種)		取扱量 (千Ton/年)	排出量(削減率) (Ton/年)	排出/取扱 割合(%)
	法	日化協			
1998年度	51	25	1,830	7,980 (BAS)	0.44
2003年度	51	23	2,350	3,325 (58%)	0.14

PRTR 化学物質の環境排出量削減(2)



主要な排出削減対策内容

- (1) 吸着槽強化による、ジクロロメタン大気排出削減
- (2) コンデンサー型式変更によるアセトアルデヒド排出削減
- (3) 内分泌攪乱物質(ノニルフェノール、4-t-オクチルフェノール)の使用中止

PRTR 化学物質の環境排出量削減(3)

2001年度、化学物質の環境排出量を
1998年度対比半減化(中期目標)達成



優先的削減取組み(ガイドライン作成:2003年7月)

有害性が高く、環境排出量が多い物質

(無機シアン化合物、臭化メチルなど)

グループ会社よりの排出量が国内で上位にランクされる物質

(ジクロロメタン、無機シアン化合物など)

地域リスクコミュニケーション

1. 背景

2000年4月化学物質管理促進法(P R T R法)の施行を契機に、**化学物質管理**について、**企業として説明責任を果たすことが、重要と判断。**

2. 経緯

(1)2002年4月 : **グループE S H委員会にて、リスクコミュニケーションへの取組みを決定**

(2)2002年7月 : **リスクコミュニケーション・ワーキング・グループ発足**

メンバー : **化学物質排出負荷の大きい主要4事業所の担当者**

活動期間 : **2002年7月～11月**

内容 ・**日化協発行のリスクコミュニケーション資料、J R C CのR C地域説明会活動などを参考に、リスクコミュニケーション・ガイドラインを検討**

・**近隣企業及び、行政とも協議**

(3)2002年12月:**「リスクコミュニケーション・ガイドライン」制定。**

(4)2003年 2月:**地域リスクコミュニケーション開始**

(2003年 3月:**環境省P R T Rデータ公表)**

地域リスクコミュニケーションガイドライン(1)

No.	項目	内容
1	対象ステークホルダー (社外)	近隣自治会(役員)、住民 関係行政(環境関係、消防、警察など) 近隣公共施設(学校、病院など)
2	実施事業所 工場	法第1種指定化学物質取扱事業者であり、人員200人以上など、規模の大きい事業所は、原則2年に1回開催。 取扱事業者で、規模の小さい場合は、開催を努力目標とする。
3	内容	会社、事業所概要 E S H方針、管理体制 環境保全管理状況(大気、水質、騒音、振動) 設備防災管理状況 化学物質管理状況(P R T Rデータ含む) 廃棄物管理状況 など 上記の説明会と合わせ、見学会を実施。

地域リスクコミュニケーションガイドライン(2)

4. 実践 Step

No.	項目
1	グループ外の近隣企業へ開催について説明及び協議
2	事業所(工場)内での開催要領を検討、意思統一
3	近隣自治会への連絡、出席要請
4	関係行政組織、公共施設への要請
5	説明会開催準備
6	所属従業員への説明
7	地域への開催連絡



地域リスクコミュニケーションの開催

地域リスクコミュニケーション開催実績(2003年～2004年)

対象部署	実施年月日	参加団体	参加者
帝人コードレ(株) 島根工場	2003年2月2日	自治会代表、公民館参事、大田市環境衛生課、近隣企業他	18名
	2004年8月1日	自治会代表、公民館参事、大田市環境衛生課 他	10名
帝人ファイバ'-(株) 徳山事業所	2003年2月20日	自治会代表、学校関係者、 徳山市市民生活部、環境対策課 他	14名
帝人(株)岩国事業所	2003年2月21日	自治会代表、学校関係者、岩国市環境保全課、保健所 JRCC事務局 他	13名
東邦テナックス(株) 三島事業所	2003年3月27日	自治会代表、学校関係者、三島市、長泉町行政関係者 JRCC事務局	15名
	2004年4月21日	自治会代表、学校関係者、三島市、長泉町行政関係者 他	11名
帝人(株)三原事業所 帝人化成(株)三原工場	2003年3月26日	自治会代表、三原市環境管理課、消防署 他	12名
帝人(株)松山事業所 帝人化成(株)松山工場	2004年6月8日	自治会代表、松山市・県環境行政担当者、消防署、漁協	20名
帝人デューボンフィルム(株) 岐阜事業所	2004年11月24日	自治会代表、学校関係者、県地域振興課、安八町行政担当者、 町議会、消防署、警察署、長良川漁協、近隣企業	31名

地域リスクコミュニケーション開催次第(例)

1. 日時 2003年3月27日(木) 14:00~16:20
2. 場所 東邦テナックス三島事業所 本事務所会議室
3. 説明会
 - (1) 開会挨拶 : 事業所長
 - (2) 行政挨拶 : 長泉町産業振興課 主幹
 - (3) PRTR制度の概要 : JRCC事務局
 - (4) 会社概況、事業所概況 : 事業所長
 - (5) 事業所の環境保全、防災活動 : 環境安全センター長
 - (6) 質疑応答
 - (7) 閉会挨拶 : 事業所長
4. 工場見学
 - (1) 製品説明
 - (2) 環境保全、防災設備
 - (3) 生産設備

地域リスクコミュニケーション実施風景



2003年3月27日東邦テナックス(株)三島事業所

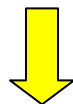
地域リスクコミュニケーションの主要な質問

No.	区分	内容
1	化学物質(PRT R)	大気への化学物質の排出量の算出方法について
2	環境保全	騒音などの測定頻度について 過去の公害などの発生状況について 異臭の発生状況について
3	廃棄物	ゴミゼロへの取組み方法について 汚泥のリサイクルについて
4	防災	地震時の対策内容について 緊急時の近隣への通報について 化学物質の消火設備について
5	その他	事業所周辺の清掃活動の頻度について

質問は、防災や、騒音・臭気に関する内容が多かったが、何れの説明会でも、企業の理解に役立ったと好評であり、今後も継続して欲しいとの要望が多かった。

地域リスクコミュニケーションの意義

地域に開かれた事業所活動



透明性、説明責任の履行(CSR)



地域社会からの信頼獲得
社員のモチベーション向上
企業不祥事の抑止

ご清聴ありがとうございました。

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions